

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度第1回枚方市生涯学習推進審議会
開 催 日 時	令和8年1月19日（月） 9時30分から 11時10分まで
開 催 場 所	第2委員会室
出 席 者	渥美公秀会長・富岡量秀副会長・所めぐみ委員・位田真由子委員・芝田かおり委員・末岡妙子委員・田中与士彦委員
欠 席 者	岡村富美代委員・市川まや委員・萩原雅也委員
案 件 名	（1）生涯学習推進基本指針進捗状況等について （2）生涯学習市民センターにおける20代から50代の生涯学習の推進について （3）その他 ・子どもの体験機会に関する情報発信について
提出された資料等の名	資料1-1 生涯学習推進基本指針進捗状況について 資料1-2 主な事務事業・所管課一覧表 資料1-3 生涯学習推進基本指針進捗状況調査表 資料1-4 生涯学習推進基本指針進捗状況調査表（抜粋） 資料2 生涯学習市民センターにおける20代から50代の生涯学習の推進について 資料3-1 子どもの体験機会に関する情報発信について 資料3-2 小中学生を対象とした催し(イベント)一覧 資料3-3 体験する機会の充実事業(体験・参加型プログラム) 参考資料1 枚方市生涯学習推進基本指針 参考資料2 「生涯学習施策」推進に関するアンケート
決 定 事 項	・生涯学習推進基本指針進捗状況(令和6年度実施)について確認を行った。 ・生涯学習市民センターの課題について審議を行い、委員の意見を踏まえ、今後の施設運営に生かしていくこととした。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	0人
所 管 部 署 (事 務 局)	観光にぎわい部 文化生涯学習課

<p>渥美会長</p>	<p>< 1 開会 > それでは定刻になりましたので、ただ今より、令和 7 年度 第 1 回生涯学習推進審議会を開催いたします。</p> <p>本日、審議会を進めていくに際しまして、会議の公開のルールや会議録の対応などについては、従来どおり「本審議会の傍聴について、原則として認めるものとし、会議録は、要点筆記で作成し、公表させていただきたい」と考えております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>本日は、案件としまして、(1)「生涯学習推進基本指針進捗状況等について」、(2)「生涯学習市民センターにおける 20 代から 50 代の生涯学習の推進について」、(3)「その他 子どもの体験機会に関する情報発信について」をご審議いただきたいと思います。</p> <p>それでは、事務局から本日の出席委員の報告等をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日の委員の出席状況ですが、委員は 10 名中 7 名のご出席をいただいておりますので、枚方市附属機関条例第 5 条第 2 項に規定する「2 分の 1 以上の出席」を満たしており、この審議会が成立していることをご報告申し上げます。また、本日の一般傍聴者でございますが、傍聴の受付はございませんので、合わせてご報告いたします。</p>
<p>渥美会長</p>	<p>< 2 案件 > それでは、議案に入ります。次第の 2「案件」をご覧ください。</p> <p>まず、<案件(1)「生涯学習推進基本指針の進捗状況等について」>を議題とします。事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料 1-1「生涯学習推進基本指針進捗状況について」 資料 1-2「主な事務事業・所管課一覧表」 資料 1-3「生涯学習推進基本指針進捗状況調査表」 資料 1-4「生涯学習推進基本指針進捗状況調査表(抜粋)」 に基づき説明。</p>
<p>渥美会長</p>	<p>この説明につきまして、ご意見、ご質問等がありましたらお願いします。</p>
<p>末岡委員</p>	<p>私自身が生涯学習というものが、生活の中でどういう位置づけになるのかが非常に難しいと思っております。私は、食育推進の審議会にも出ておりまして、そこで大きく課題に挙がっているのが、非常にいい取組みをやってみても、そこにアクセスする時間がない人や興味を持たない人がいるということです。本当に食育を推進するときが一番必要なのは、興味を全く感じていない人たちにその重要性をお知らせして、実施していただくことなんです。それがどうやったらできるんだろうというところで話が止まっています。生涯学習でも同じようなことが言えると思うんです。資料を読んでいると、アンテナを張っている人向けの活動がほとんどであって、アンテナを張っていない人に、どのように引っかけてもらいたいというのが、一番大きな悩みであると思うんです。アンテナを張っていない人にも、取り組んでいただくことができる活動になっているのか。生涯学習は、自分から手を伸ばす活動でいいんだということになるのか、その範囲というものを知りたいと思いました。</p>
<p>渥美会長</p>	<p>興味を持たない人にも広く、全ての方に向けて行うのか、情報を得ることが</p>

	<p>できた人が享受する形で行うのかということですね。このことについて何か事務局からありますか。</p>
事務局	<p>全ての方に向けてということで考えています。最終的には、生涯学習自体はご自身の学びですので、興味を持っていない方も学びたいと思えるような講座を実施して、それを通じて興味を持ってもらって、活動していただくという形が理想であると思っています。</p>
末岡委員	<p>保育をつけるとかネットの配信であるとかそういった形で、いろんな困難な状況にある人も参加しやすくはなっているかとは思いますが、やっぱり自分から手を伸ばす人が対象ということですね。</p>
事務局	<p>市としまして、情報を拾っていただかないとだめだということは認識していて、そのために様々な SNS 等の媒体を通じた発信などもしておりますが、それを全く見ない方というのは、逆にどういうアプローチをしたらいいのか。市としては思いつく限りのアプローチをしています。</p>
渥美会長	<p>今おっしゃったように、次の案件（２）の若い年代に関する課題についても、忙しいというのも１つの理由でしょう。でも、その中で、情報を知らないのか、それともそもそも見る時間がないのか。次の案件でも、ご意見いただきたいと思います。他の委員はいかがですか。</p>
田中委員	<p>私自身、興味を持ったのが、このアンケート結果なんですけれど、全体的な満足度レベルが令和５年度は 63.2、令和６年度は 63.8 と、0.6 ポイント増えていて、その内容を見ると、「学ぶもの同士のつながりを支える」というところが 2.2 と激増している。それから「世代間交流を支える」というところが 1.8、「学びの成果を活用できる仕組みづくり」というところが 1.8 と、こちらも非常に大きく伸びています。やっぱりつながりや交流、その成果を活用できる仕組みづくりといった人と人との対面での交流が充実していることの１つの成果ではないかと思うんです。今は SNS など、非対面で交流を図っていくことが主流になっていますが、対面で交流するというのが、人と人とのつながりを深めていくという点で、非常に重要なことだと思うんですけれども、ここを伸ばしていくということについて、何か市として取り組んでいることや考えていらっしゃることはあるんでしょうか。ここが非常に強みだと思うんですよね。</p>
事務局	<p>数年前に生涯学習市民センターにも Wi-Fi を導入しましたが、生涯学習の分野でも文化の分野でも、人と話すということも重要だと認識しています。講義でも、オンラインではなくて、直接、講師から話を聞く、文化でも、直接ホールに行って鑑賞するといった直接体験をする方が心に響くものだなと思っております。</p>
渥美会長	<p>ありがとうございます。 せっきく伸びた部分なので続けていければいいと思います。</p>
田中委員	<p>もっと伸ばしていく余地があるかなと思います。</p>
芝田委員	<p>生涯学習市民センターやどこかの公共施設に行くかどうかというのは、年代ですごく分かれてくると思います。小学生が通うことと、仕事をされている</p>

	<p>20代や30代の方が通うということでは、人数も違うし、目的も全く変わってくるんですけど、でもそれは基本的にはやっぱりつながっていくものかなと思うので、例えば、子どもの頃から生涯学習市民センターに通う習慣があって、それが中学生、高校生とか大学生のときに勉強する習慣に変わって、その勉強する習慣から、今度は大人になったときにどんな習慣になるのか。大人になってからは、結構選択肢が多くて、お一人で生きられる方、結婚される方、妊娠される方など様々あると思うんですけど、そういう方がどう活用できるかという視点が必要だと思います。また、50代、60代でお仕事を引退される時期になったときにどう活用されるか、引退した後どう活用するか。年配になって、80歳とか90歳になられたときにまたどう活用されるかというところをそれぞれ考えていかないといけないと思います。また、それぞれの年代で、自分の子どもや娘や孫とのつながりができていると思うので、このつながりのところをできれば見える化して、その年代に沿ったセミナーであったりとか、食育であったりとか、勉強会、あと役所の使い方など分かりやすいものがあれば、つながりを持って、続けて通っていくようになっていくのではないかなと思います。そこが切れてしまうから、もう行かない場所になってきますが、常に、ここに来たら知りたい情報が取れると分かってくると、生涯を通して使っていく場所になっていくのではないかなと感じました。やっぱり20代から40代、50代手前ぐらいまでのお仕事している時期というのは、忙しくて一番切れてしまう時期なので、この期間をどのようにつなげていくかが課題だと思います。</p>
<p>渥美会長</p>	<p>ありがとうございます。ライフサイクルに合わせて、市でフォローしていくという取組みはやっていますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ピンポイントで、各年代ごとの対象者をイメージした事業はやっておりますが、今、芝田委員がおっしゃった、それぞれの年齢層における活用方法の変化に合わせて、それを網羅するといった形では実施できておりません。今おっしゃった観点で考える方が、事業としては組みやすいのかなと思いましたので、今後、生涯学習事業をやっていく上で、今のご意見を参考にしながら実施していきたいと思います。</p>
<p>芝田委員</p>	<p>一番は、年代分けよりも、20代から40代の方が出産されたときに、また0歳の子と繋がるというように、そこでまた新たな活用が始まると思うんです。その活用が始まったときに、上手にどの年代でも活用ができるということを知っていると、離れないでずっとそこを活用しようとなるのではないかなと思います。困ったときにちょっと覗いてみよう、自分の今のこのライフスタイルに必要なものがあるんじゃないかなと思えたら一番いいのかなと思います。</p>
<p>渥美会長</p>	<p>所委員は、何かご意見ありますか。</p>
<p>所委員</p>	<p>他の委員のお話を聞いていて、特に末岡委員が最初におっしゃっていた、そもそも政策として枚方市が実施する生涯学習をどう捉えるかというところで、今日の資料を見ていると、生涯学習は本当に多岐にわたっていて、この多岐にわたるといっても1つ答えがあるのかなと思うんですけど、どんな人たちにも確実に届くようにしていくかということや、あるいは届いていなくてもいいのかということについては、全体で見ると一方で、特にこの事業についてはというように見ていくといいのではないかなと思っていました。</p>
<p>所委員</p>	<p>先ほど、事務局の方からも問われていたように、情報として届いていない方もいらっしゃるれば、本当に時間がなくてできないという方もいらっしゃるって、</p>

	<p>その方たちに確実につながるようにする方法は多岐にわたっているのですが、当該課だけではなく全庁的な取組みの中で、何か工夫や知恵が出し合えるといいと思います。そして、生涯学習については、全体を通して、自発性は大事にしていこうという部分があると思いますが、自分からやらない人を放っておくということではないけれども、本当に自発的に関わることに障壁があるなら、それを取り払えるような方策というのは、そういった方たちに直接関わっているような関係課や活動されている市民の方たちからも、お知恵を拝借できたらいいのではないのでしょうか。今日この場だけで評価は難しいのかもしれないですけど、さっき事務局が言われたような、どうしていったらいいかというのは、常に関係者の方に問うていけたらいいなと思って聞いていたところです。</p>
渥美会長	<p>ありがとうございます。位田委員は何かご意見はありますか。</p>
位田委員	<p>小学校の校長会代表で来ております。見直しとなっている部分の小学校に係るものとして、小中学校の施設開放事業についてなんですけれども、ここに書かれていますように、学校を使っていただいて生涯学習を進めていただくのは本当にいいことだなと思うんですが、確かに利用者が固定化されているという現状が、切実に課題として挙がっています。その調整を、もちろん教育委員会や開放委員会というところでも調整をしていただけるんですけども、窓口が教頭になっているというところが一番の課題になっていまして、どんどん使わせてほしいということはいいいことなんですけれども、たくさんのお問い合わせがある中でお断りせざるを得ないという状況にもなっています。最近、全部の学校の体育館に空調設備が整いまして、快適に体育館でスポーツをしていただけることになりましたので、より使いやすくなったかなと思うんですけども、非常に利用者が増えている状況です。できるだけ早急にシステムを構築していただいて、市民の皆さんが平等に学校の体育館や運動場を使えるような状況にしていきたいなというところが、学校からの主な意見でございます。</p>
渥美会長	<p>ありがとうございます。私からも二言だけ言わせていただきたいと思えます。1つは、小中学校の施設開放事業については、学校は避難所になるということもありますので、阪神・淡路大震災のときからそういう利用をしていた方が、地元が助かったという例がありますので、本当は利用をどんどん進めていくといいなと思いました。それから、最初の問題提起として、末岡委員の方からありましたように、どこまでアプローチしていくかという点については、基本指針にも関わることですが、今日はそこまでの議論をする予定ではなくて、案件（2）で20代から50代の方々の実態を今からご報告いただいて、アイデアのレベルでいくつか意見を出し合うということになります。生涯学習がどうあるべきか、どこまでアプローチすべきかという観点になると、参考資料1の枚方市生涯学習推進基本指針まで考えないといけないという所先生のご指摘もあったところだったと思いますが、今日はそこまでは議論しませんので、次の案件に移らせていただきたいと思えます。それでは、次に<案件（2）の「生涯学習市民センターにおける20代から50代の生涯学習の推進について」>事務局からご説明いただければと思います。よろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>資料2「生涯学習市民センターにおける20代から50代の生涯学習の推進について」に基づき説明。</p>
渥美会長	<p>ありがとうございます。今ご覧いただいたとおりの実態があり、その実態に</p>

	<p>対して取組みもなされているという中で、どのように更に利用を上げていったらいいのかという点について、末岡委員、ご意見ございましたらお願いします。</p>
末岡委員	<p>30年～50年ほど前、婦人学級があって、それが市民学級になりました。今、そのような市民に金銭的な補助をして講座を開催してもらおうというのはやっていないんですよ。</p>
事務局	<p>ありません。</p>
末岡委員	<p>先ほど田中委員もおっしゃったように、皆さんが一番求めているものはつながりづくりですし、与えていただく学習ではなく、自分たちが学びたいことを学ぶという場づくりが必要だと思うんです。自分たちで場をつくり、そこにお金をいただいて学習を継続的に開催する。例えば生涯学習市民センターを使うということをして1つの条件に入れ、年間で人数や公募の条件を定めて、行政側が一方的に、講座を提供するのではなく、講座を作ったり、講師に来てもらったりすることを支援する。そのような事業をもう一度、立ち上げたらいかがでしょうか。子ども食堂の場合、段階、数によって金額が変わるんですよ。土曜日のいきいき広場だったら、1回につき2万円というお金が出ていて、それで講座を組み立てています。市民が、自分たちがやりたいことを考え、作り出すという、その過程が一番の学びになりますし、つながりづくりになります。そして学ぶ内容によって、またいろんな深み、広がりが出ます。成果を活用もしつつ活動ができると思うんです。非常に生涯学習が充実するやり方だと思うんですが、いかがでしょうか。</p>
渥美会長	<p>ありがとうございます。みなさんの意見を聞いてから、まとめて事務局にご回答いただきたいと思いますので、他の委員の意見もお聞きしたいと思います。芝田委員、先ほどライフサイクルやライフステージにうまく連動するような形はどうでしょうかとおっしゃっていましたが、何か付け加えることはありますか。</p>
芝田委員	<p>商業連盟として「まちゼミ」というものをやっているんですが、生涯学習のセミナーに近いもので、商業者が自分のお店のことを知ってもらうためにやっている事業なんですけれども、私なんかだとパンについての講座をしたりします。私達は当たり前知っていることを教えてもらってもつまらないだろうなと思っていたら、参加された方は意外に喜んでくれます。その子どもバージョンの「子どもまちゼミ」というのを2年前ぐらいから始めていて、すごく好評で、たくさん子どもたちが来られるんです。そのときにいつも思うことは、そこから大人のまちゼミにちゃんとつなげるだけの段取りや用意をしておく必要があるなということです。「子どもまちゼミ」のときに、お母さんやおばあちゃん、おじいちゃんに伝わるような材料を用意して、そこまでの計画を練ってやれるとすごく手間が少ないんですが、やっぱり子どもだけで終わってしまって、また大人のときに同じ労力で一生懸命広報していかないといけないということになっています。先ほどの案件の際にも言わせていただいたことですが、何をやるか、どんなことが求められているかもすごく大切なんですけれども、1つやったときにそこに関連する方にお伝えするようなことをやっていくことが、すごく大切なんだなというのを感じています。私は商売をしているので、商売の上でも大切なんですけれども、1つやったとき、次にここに来てほしいということをPRしていける仕組みがもっと作れていくと、もっとダイレクトに、お孫さんからお母さん、おばあちゃんなどに伝わっていくのではない</p>

	<p>かと思ひます。インターネットや Instagram で探すということはあると思ひうんですけれど、20 代から 40 代の方は、たぶん生涯学習市民センターや市役所がやっていることを Instagram で見ても、あまり行こうとか、やろうと思ひわない。でも、子どもから聞いたりとか、おばあちゃんから聞いたりとか、友達から聞いたら、少し心が動いて行ってみようかなと思ひうんじゃないかなと思ひうので、そここのところをもう少し力を入れて、やっていけたら少し変わるかもしれないなと思ひました。</p>
渥美会長	<p>ありがとうございます。田中委員はいかがでしょうか。</p>
田中委員	<p>この資料 2 を見させていただいて思ひたんですが、まずこの 20 代から 50 代をターゲットにした生涯学習の推進についてということなので、例えば募集人数を 100 人とした場合、20 代から 40 代までの人というのが半分もいないとすると、この資料に記載されている講座が、その人たちが本当に必要としている講座内容になっているのか、その指向性に合致しているのかは、少し疑問に思ひました。特にこの「お味噌汁で健康生活！」とか「金融セミナー講師と学ぼう『リタイア後に知っておきたいお金の話』」とか、金融については、確かに必要な話ではあると思ひますけれども、そういう資産運用の話は、本屋に行ったらいくらでも情報となるような書籍が売っていますから、逆に市として取り組む場合、どういうところを特化して伝えていくのが絞られていないような感じがします。</p>
渥美会長	<p>テーマの問題ですね。</p>
田中委員	<p>それから、情報発信ということに関して言えば、やっぱり月 1 回の「広報ひらかた」はもちろん大事なことではあるんですが、やっぱり 20 代、30 代の人たちというのは、今は SNS が主流なので、Instagram とかそういったツールを積極的に活用して、情報発信していくというのが必要だと思ひます。枚方市としてやっている Instagram はありますよね。文化生涯学習課として何かやるんだったら、また別にアカウントを持って、情報発信していくというのも 1 つの手だと思ひますし、Instagram などは 3 秒で次見たいか見たくないかが決まるらしいので、そういったことを意識する必要もあると思ひます。</p>
渥美会長	<p>3 秒は厳しいですね。</p>
田中委員	<p>厳しいですよ。でも実際は今のライフスタイルで生活している人たちはそれぐらいの速度で物事を取捨選択していくということも認識しながら取り組んでいく必要があるんじゃないかなと思ひます。</p>
渥美会長	<p>ありがとうございます。位田委員はいかがですか。</p>
位田委員	<p>資料 2 に記載されている講座で、特に人気のあつたものはどの講座になるのでしょうか。</p> <p>他の委員がおっしゃったように、自分で調べればどんどん出てくる内容の方がいいのか、つながりがあるものがいいのかというところで、その辺りがヒントになるかなと思ひました。資料 2 に記載されている講座は、とても魅力的な内容かなと思ひうんですけれど、それでも少ないとしたら、あとは何が足りないのかなというところを考えないといけないと思ひます。</p>

事務局	金融系の講座は毎回、すぐに定員に達します。田中委員もおっしゃっていたとおりの皆さんの情報がある中で、一定生涯学習市民センターの事業としてニーズはあるのかなと認識しています。それからお片付けの講座や利き酒の講座もかなり人気でした。
事務局	酒蔵の人に来ていただいて、お酒の説明をしながらという形の事業です。ただ、全ての事業におきまして、20代から50代をターゲットにはしているんですが、参加者の的には、少し外れた、もう少し上の方も来られている状態ですので、それは市でしっかりアピールして行って、その層に来ていただける準備をしていかないといけないのかなとは思っております。
渥美会長	それを踏まえて、何かご意見ありますか。
位田委員	年齢制限をするのは難しいでしょうか。
事務局	あえて入れるなら、できないことはないです。例えば子ども向けの事業でしたら、小学生とか中学生とかに限っている事業はございますので、思いきって、そうしてしまえばいいのかもしれないのですが、もしそうしたときに参加人数が少なくなってしまうのも問題ですので、その辺りを考慮しながら、優先を設けることが可能かどうかも含めて、検討させていただきたいと思います。
渥美会長	所委員は、何かご意見ありますか。
所委員	基本的なことで質問をさせていただいてもいいですか。本当にすごく面白そうな講座が並んでいるんですけど、各地域の生涯学習市民センターによって違うかもしれないんですが、どのようにこの講座にしようか決めているのかということと、実際の講座の開催される曜日とか時間帯というのが、20代から50代層が参加できそうなところに設定されているのか伺えますか。
渥美会長	ご質問に関しては、後で事務局に答えていただきます。それから、年齢層に合わせた方がいいというご意見ですね。
所委員	そうですね。20代から50代といっても幅がありますし、それぞれの暮らし方があってと思うので、全ての人に合わせるといのはかなり絞っても難しいかなと思うんですけど、実際のところ少ないという状況が、どういうことが原因なのかというのを考える上で、知りたいなと思いました。それとどうやって決めるかということも、例えば、そういう年代層の人たちの希望なども聞きながら検討されているのか知ることができればと思いました。
渥美会長	ありがとうございます。富岡副会長はいかがでしょう。
富岡副会長	まず20代、30代、40代は、基本的には生涯学習市民センターには行かないと思います。それはやっぱり忙しいですし、いろんなところでの活動があるわけで、その層の人数が少なくなるというのは当然のことだと思います。そういう層をあえて持つてくるのだとしたら、例えば、これはすごいというようなイベントなどをやれば、行く機会になったりすると思います。ただ、継続的にそこに行って、しかもサークル活動をするのは、他にいろんな形の活動があったりする中で、なかなか難しいだろうなと思います。あとは、子育ての話について、お母さん教室も確かにニーズはあるんですが、その人たちも基本的に色々

	<p>な面白いものがあるところに顔を出すんです。そこでつながりをつくるというのは確かにあるんですが、基本的に自分で選択して、聞きたいものを聞く、あるいは得たい情報を得るという形で、何かそこで継続してということはなかなか難しいと思います。あとは、生涯学習のいろんな考え方があると思いますが、例えばこれは枚方市に住んでいるからできる、あるいは参加することができるみたいなものがあったり、イベント性があったり、あるいはメリットがあるというものがあつたとしたら、それはとても面白いと思います。</p>
<p>渥美会長</p>	<p>私も少しだけ意見を申し上げます。枚方市だからという富岡副会長のご意見に私も全く賛成なんですけど、枚方でよかったと思える方がいいなと思っていて、例えば、生涯学習市民センターは、図書館と併設していますけれど、図書館との連動をどうされているのかということです。図書館もたくさんイベントをしていると思います。それから、今この建物に入ってくるときに、今度、ホールでやるベルリン・フィルのポスターがありました。僕も少し楽器をやっていたものですから、あの方達が来てくれる講座があつたら、それはとても特別だと思います。だから、せっかくあのホールがあつて、そこに出演する人たちを生涯学習にも活用できたらいいんじゃないかと思いました。人形劇なんかも伝統的にやっていることは知っているんですけど、最近の出来事としたら、あのホールが新しくなったことですから、そこを上手く繋げられないかなと思って聞いていました。もう一度、皆様からのご質問をまとめますと、例えば予算措置できないかというお話もありました。それから、ライフサイクルをうまく反映させて、1つの世代だけを狙うんじゃなくて、その連動を意識できないか、テーマについてもう少し検討の余地があるのではないか、それから、そもそもそのテーマをどう決めているのか、SNSをどのように使っているのか、テーマだけではなくて、時間をどのように設定しているのか、そもそもあまり行かない中で、かなり特殊なものやったら行くんじゃないかということで、何か工夫をされていますかというご質問でした。様々な意見が出て、審議会としてはよかったと思います。まず、この段階でお答えしていただけるものについて、事務局からいかがでしょう。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。まず、一番初めの市民団体の補助金の件なんですけど、現状は生涯学習市民センターには活動委員会があるのはご存じですか。活動委員会事業とは別でという認識でよろしいでしょうか。</p>
<p>末岡委員</p>	<p>別枠です。</p>
<p>事務局</p>	<p>現状、そういったことはやっておりませんが、今後の方向性について、ここではお答えできませんが、現在、最大 30 万円まで支援をさせていただく市民企画イベント促進事業という事業はあります。</p>
<p>末岡委員</p>	<p>それは金額が大きいですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>もちろん額は、5万円、10万円でも可能です。また活用をしていただけたらと思います。</p> <p>時間の関係もありますので、次は、芝田委員からの情報の入手の仕方について、本人にアプローチしにくければ、子どもや、おばあさん、友達などから情報を入手したら行くようになるかもしれないとのご意見ですが、様々なアプローチの仕方として有効な手段の1つになるのかなと認識しましたので、その辺りを含めて、検討させていただきたいと思います。</p>

	<p>続きまして、田中委員の Instagram の件なのですが、枚方市でも Instagram はやってはいるものの、おそらく3秒で入ってこないような記事の書き方になっていると思いますので、発信するときに気をつけてやっていきたいと思います。</p> <p>所委員からのイベントの時間や曜日をどうやって決めているのかというご質問についてですが、基本、資料2に記載しているような講座は金曜日の夜間や土日に開催しておりまして、ビジネスパーソンなどお仕事をされている世代も参加しやすい曜日、時間帯を狙って実施しています。それからテーマの決め方なのですが、各生涯学習市民センターにこういった方向けの事業をやってくださいという形でお願いしていきまして、センターごとに企画してやっていただいているというのが現状です。ただ、今のお話を聞いていきまして、どのセンターでこれをやるという情報の共有まで至っていませんので、全体でターゲットが満遍なく狙えるような形でやっていきたいと思います。</p> <p>富岡副会長からのご意見は、枚方として面白いこと、面白いものなら来てもらえるということでしたので、枚方市としてどういうコンテンツがあるのかというところから整理していきまして、今後の参考にさせていただきたいと思っています。</p> <p>渥美会長からご意見いただいたベルリン・フィルの件も、ベルリン・フィルではないですが、ウィーン・フォルクスオーパーという交響楽団が来たときに、生徒を募集して、直接指導を受けられるマスタークラスという取組みを実施しました。ただ単に演奏会を聞かせるだけではなくて、もうひとつ踏み込んだ形の事業も一緒にできるといいというご意見については、そういった取組みもさせていただいている状況です。</p> <p>それをこの20代から50代の生涯学習の推進にどのように取り入れていくかですね。特別感のある事業は実施されているということは分かりました。今回のこの案件が、20代から50代が明らかに少ない中で、それは少なくとも仕方ないというご意見ももちろんそのとおりなのですが、もう少し広げていくにはどうしたらいいのかということで、様々なご意見を頂戴しました。一旦これで案件2を終了します。ありがとうございました。続きまして、<案件(3)「その他・子どもの体験機会に関する情報発信について」>、事務局からご説明させていただきたいと思います。</p>
<p>渥美会長</p>	<p>資料3-1「子どもの体験機会に関する情報発信について」 資料3-2「小中学生を対象とした催し(イベント)一覧」 資料3-3「体験する機会の充実事業(体験・参加型プログラム)」 に基づき説明。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料3-1「子どもの体験機会に関する情報発信について」 資料3-2「小中学生を対象とした催し(イベント)一覧」 資料3-3「体験する機会の充実事業(体験・参加型プログラム)」 に基づき説明。</p>
<p>渥美会長</p>	<p>ありがとうございます。今ご説明いただいた資料について、何かございますでしょうか。田中委員、お願いします。</p>
<p>田中委員</p>	<p>この小中学生を対象とした催し一覧を今ざっと見させていただいて、非常に魅力的な良い内容であるなと思いました。私事ですけれども、私は日本舞踊家として活動していきまして、かつてアーティストバンクというものに登録させていただいていました。アーティストバンクに登録しているアーティストを小学校へ派遣するアウトリーチ事業で、枚方市内の小学校を何校か回らせていただいていたのですが、アーティストバンクには年齢制限があって、私はもうそこを退いています。アーティストバンクに登録している人は、枚方出身であるとか枚方にゆかりのある人たちというのが登録されているわけじゃないです</p>

	<p>か。だから、退いた人とか現在登録中の人も含めて、もっと積極的に活用して行ってほしいなと思います。ここにあるような三浦文彰さんとか、宮田大さんとLEOさんのデュオ・リサイタル、こういうのももちろんいいけれども、もっと身近なところで、文化芸術の活動で力を発揮できる人たちがこんなにいるということは非常に素晴らしいことだと思うので、ぜひそういった人たちを積極的に活用して行ってほしいなと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思いますので、参考にさせていただきます。</p>
渥美会長	<p>ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。</p>
末岡委員	<p>この一覧をどういう形で、小中学生に届けているんですか。</p>
事務局	<p>この一覧を小中学生のタブレットに配信しています。また、保護者のまなびポケットにも配信しています。将来的には、この形では地域団体の方々がやりたい事業を選べないと思いますので、掲載事業の予算規模とか連絡先を調査して掲載することで、活用につなげていきたいと思っています。</p>
末岡委員	<p>小学生の保護者からタブレットにたくさんの情報が来て、だいたいは開かないとよく聞きます。</p>
事務局	<p>そういったこともあって、講座などは保護者が見て申し込んだりすることも多いと思いますので、まなびポケットを通じて保護者にも通知しています。</p>
末岡委員	<p>受け手は、実はスルーしちゃっているというのが現実ではないかと思います。</p>
田中委員	<p>そこは伝え方の課題だと思います。</p>
渥美会長	<p>ありがとうございます。芝田委員、何かご意見ございますか。</p>
芝田委員	<p>私も食育推進の審議会にも参加しているんですけども、商業連盟で「子どもまちゼミ」をしたときに、子どもの場合は、食べ物をつくるとか、何かを作る講座は、すぐに人数が集まるんです。一方で、何か見るとか、勉強するとか、考えるといった講座は、やっぱりすごく参加人数が少ない傾向にあります。今年、面白いなと思ったのは、美容の講座で、今は小学生でも化粧をしたりするので、美容の講座をやってみたんですが、私たちは来ないだろうと思っていたのに、何人か来られたということで、面白いなと思いました。このイベント一覧の中でもすぐに集まるものと、集まらないものとすごく差があると思うんです。私も気をつけないといけないなと思っているのが、作って食べるだけの講座ではなくて、作って食べるときに、何かを伝えるとか、人気のないものと人気のあるものを組み合わせるとか、そういったことも考えていかれるのもいいのかなと思いました。元々枚方市でやっていることとコラボしてやるというのもいいのかなと思っています。私たちのやっている講座は、参加申込みが多くて、受け入れられないという講座もあって、例えば1つの講座で300人申込が来たりするんです。でも、じゃあ全部そうなのかと言ったら、ゼロで申込みが来ない講座もあるんです。それを勉強して模索しながら、なんで来ないのか、どうしたら来るのかを考えているんですが、そういうのを一緒に、参考にしながら、事業をやってもらったらいいのかなと思いますので、よかった</p>

	らご検討ください。
事務局	ありがとうございます。
渥美会長	他の委員はいかがでしょうか。
位田委員	非常に申し上げにくいことなのですが、学校からこういった市の事業のお知らせを配信するということが、負担になっていることも現実です。作業自体もそうなんですけれども、少し配信が遅れたりしたときに締切が終わっていて、よその学校は一步早くて行けた、なんでうちの学校は遅いんですかというようなご意見をいただいたりするのです、そこにすごく神経を使うところがあります。もちろんご協力はしないといけないと思うんですけれども、学校からの配信を周知の手段のメインとするということになると、少し負担があるということをご理解いただきたいなと思います。大阪市は、一切、学校経由でこういう事業、イベント関係を周知しないということになっているそうです。教育委員会のホームページか何かを見るという仕組みになっているということを知っています。これだけではなくて、いろんなところで学校の業務が非常に膨大になっていまして、遅れたり、タイミングを逃したりするということがあって、心理的にも作業的にも負担になっているということをお知らせしておきます。
渥美会長	ありがとうございます。
芝田委員	難しいところですよ。
渥美会長	所先生はいかがですか。
所委員	本当につながるところの情報を出すのは難しいということや学校のご負担のお話もあって、そこはご検討いただければと思います。私はそんなに SNS を使い慣れている方ではないのですが、それでもかなり便利にはなってきたということと、親の世代はもちろん子どもたちも本当に使っていると思うんですが、1つの情報だけ見て全部が完結するのではなくて、より関心がある人がもっと情報が得られるようにつなげていただけるといいというのは、いつも思っています。特に参加型が多いので、実際に講座を受けた人たちに参加してみてどうだったかという声も次につなげられるかなと思いますし、先ほどアーティストバンクのお話も出ていましたが、アーティストバンクの方たちもそうですし、それ以外にもこの様々な講座を実際に開校するにあたってご協力いただいている方にも声が聞けるといいのかなと思いました。
渥美会長	ありがとうございます。富岡副会長はいかがでしょうか。
富岡副会長	先ほどの学校現場のご意見は重要なお意見だなと思っています。それと同時に、現在、子どもたちの学びという観点では、いろんな課外活動というのをすごく充実させているという例もあります。例えば、有名私立校なんかは、年間、課外活動だけで 100、200 のプログラムがあつたりします。公立校でもモデル校なんかは、それぐらいのプログラムを用意しています。その中でも全部が全部、埋まるわけではなくて、次の年はまた違う内容に変わっていることも当然あるわけです。来ないプログラムというのは、なくなっていく。そういう形で、色々な学びという課外活動を展開しているという例もあります。そういう例もある中で、先ほどの話とも連動するんですが、枚方市ならではの活

	<p>動がある、あるいは、そういう課外活動に参加することができるということになると、子育て世代が、枚方市の学校に行かせるとこんなものが提供される、あるいは関わるができるというのは、やっぱり子育てをしよう、あるいは学校を行かせようという世代にとっては、とても魅力的になってくると思います。都市経営的には、そういうところがいわゆる人口流入という部分、あるいは住み続けたい、住みたいというような魅力につながってくると思います。それぞれの負担というものをいかにカバーし合いながら、いい形で、そのようなことが展開できるかというのが、これからの大きな課題でもあり、それがうまくできるととても魅力的になるのかなと思いました。</p>
渥美会長	<p>ありがとうございます。この一覧について、例えば、点字版などユニバーサルデザインでやられていますか。全ての広報において、最初に出た話にありました、忙しくて取れないというのももちろんありますが、障がいのある方々にとってはどうなのでしょう。</p>
事務局	<p>「広報ひらかた」は録音版がございます。こちらで掲げているのは「広報ひらかた」で出ている情報をまとめた、絞った情報になります。</p>
渥美会長	<p>PDF が送られてくると読み上げさせることができますよね。視覚障がいの方はそういうものを使っている場合もあると聞きます。今日はあまり議論にならなかったけれども、知りようがなかったという人を作ったらいけないなと思いましたので、バリアフリーの観点からもぜひ考えないといけないと思います。</p> <p>終了予定時刻を過ぎていますので、閉会したいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>では、閉会するにあたって、事務局から連絡事項等ございましたら、お伝えいただければと思います。</p>
事務局	<p>本日の会議録につきましては、事務局で案を作成した後、委員の皆様にご確認いただきまして、その結果を会長と調整した上で確定して、公表をしたいと思いますので、どうぞ最後までよろしく願いいたします。</p>
富田部長	<p>最後に私から一言御挨拶させていただきます。</p> <p>(部長挨拶)</p>
渥美会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、これにて生涯学習推進審議会を終了したいと思います。本日は、お疲れさまでした。</p>